

平成21年度外国語活動における教材の効果的な活用及び 評価の在り方等に関する実践研究事業

弘前市立新和小学校

1 学校の概要

(1) 学校規模

- ① 学級数：8学級（内特別支援学級2学級）
- ② 児童数：99名
- ③ 教職員数：13名
- ④ 活動の対象学年：5学年・2学級・18名（内特別支援学級1学級、児童1名）
6学年・2学級・19名（内特別支援学級1学級、児童1名）

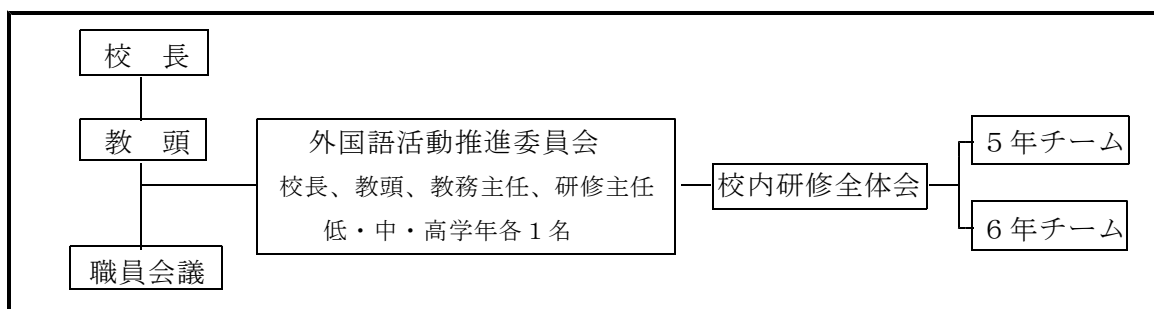
(2) 学校環境

- ① 学区は弘前市街地より北西へ1.1kmほど離れた、りんごと米を主な生産物とした純農村地帯であり、自然豊かなところである。「おらほの学校」として、学校に対する地域の思いは非常に熱い。
- ② 隣接する町には英語塾があるが、2名児童が通塾している程度である。周辺地域には、英語を話す外国人や英語の堪能な日本人は住んでおらず、日常生活において英語に触れる機会はほとんどない。

(3) 連絡先

- ① 住所：〒038-3615
青森県弘前市大字青女子字桜苺292番地4号
- ② 電話：0172-73-2673
- ③ FAX：0172-73-2681
- ④ ホームページ：<http://www.hi-it.net/~s-niina/>
- ⑤ 電子メール：s-niina@hi-it.jp

2 事業推進組織



3 事業経過

月	取組の内容
4月	<ul style="list-style-type: none">・外国語活動推進委員会・全体会で研究計画の共通理解・学習会（中核教員研修資料を用いて）・教材・教具づくり・授業の開始

5月	<ul style="list-style-type: none"> ・学習会（DVD「You can do it.」「Enjoy English Together!」を活用） ・本校独自のアンケートの実施（1回目） ・弘前市小学校英語活動研修講座参加
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内環境づくり、教材・教具づくり ・5年提案授業指導案検討会 ・第1回青森県外国語活動における教材の効果的な活用及び評価の在り方等に関する実践研究事業推進協議会参加
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・5年提案授業及び研究協議会の実施 ・弘前大学教育学部附属小学校研究発表会参加 ・4～7月までの研究についての振り返りと共通理解
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語活動研修会（クラスルームイングリッシュを中心にして）及び学区の中学校との情報交換
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの効果的な教材に関する研修会（電子黒板）、6年提案授業指導案検討会 ・文部科学省実践研究校児童向け意識調査（第1回）実施 ・弘前市小学校英語活動研修講座参加
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道・東北ブロック別小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修参加 ・中学校区の小・中4校による6年提案授業公開及び研究協議会の実施
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・2年・4年による英語を使った活動の授業公開 ・校内環境づくり ・学習発表会を通して地域への外国語活動の紹介
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・1年・3年による英語を使った活動の授業公開 ・本校独自のアンケートの実施（2回目）
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校外国語活動中核教員研修参加 ・第2回青森県外国語活動における教材の効果的な活用及び評価の在り方等に関する実践研究事業推進協議会参加 ・文部科学省実践研究校児童向け意識調査（第2回）実施 ・文部科学省実践研究校教員用意識調査実施 ・外国語活動推進委員会 ・全体会での研修のまとめ（成果と課題）と来年度の方針の共通理解 ・全国小学校英語活動実践研究大会岐阜大会参加
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施報告書の作成
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・教材・教具の整理

4 具体的取組内容

（1）文部科学省が作成する小学校における外国語活動のための教材を活用した授業の実践

- ①英語ノート1・2に基づいて35時間授業実践を行った。活動のめあてを示したり、学習形態を変化させながらコミュニケーション場面を増やしたりして、活動内容を工夫した。
- ②電子黒板を使用し、英語ノート準拠のデジタル教材をスクリーンに投影し、教材提示や音声の再生、ゲーム等に使用した。ALTの発音だけでなく付属のCDを何度も活用したことで、いつでも正確で同じ音声を繰り返すことができ、効果的に外国語の音声に親しませることができた。
- ③絵カードや写真等を活用して、児童の興味・関心を高めるための教材提示の方法を工夫した。

（2）コミュニケーション能力の素地に関する評価の観点及び評価方法の研究

- ①英語ノートの評価規準例通り、どの活動をどんな手段で評価するか、はっきりさせて授業に臨むようにした。
- ②児童の自己評価（ふり返りカードを含む）、相互評価及び教師の観察等で評価を行ってきた。

単元での見とり、一単位時間での見とりなど評価を蓄積することで、児童の実態を把握することができた。また、蓄積した評価を解釈し価値判断を行うことで、教師が自らの授業を反省し、それを踏まえて授業改善を行うようにしてきた。

(3) 児童の興味・関心等の学習状況の変容に関する定量的な把握及び文部科学省が実施するアンケート等の調査の実施

- ①学校独自のアンケート調査を5月と12月の2回実施し、児童の興味・関心、意欲面を把握し、授業改善に生かすとともに、変容をとらえるようにした。
- ②文部科学省の実践研究校児童向け意識調査を9月と1月の2回実施した。

(4) 授業の中心となる学級担任等及び校内の他の教員の指導力向上のための取組

- ①全教員が、外国語活動に関する学習会に参加したり、研究について話し合ったりする中で、素直に疑問点を出し合い、積極的に意見交換を行った。
- ②積極的に各研修会に参加し、教員一人一人の指導力向上を図ってきた。
- ③校内研修会及び中学校区の小・中学校への公開授業に指導主事を要請し、研究協議会で指導・助言していただいた。
- ④1～4年の学級担任も独自で指導案を作成し、主担当として5回授業を行った。特別支援学級でも、在籍児童の実態に応じた活動ができるように工夫し、2回授業を行った。

(5) 学級担任等を補助するためのA L Tや地域人材等の外部人材の効果的な活用

- ①年間35時間すべての時間で、弘前市教育委員会のA L Tや英語活動支援員とT Tを組み授業を行った。綿密な打ち合わせ時間を確保しており、役割分担も明確にするようにしてきた。
- ②興味・関心を高めるためA L T等の生の英語をできるだけ聞かせることによって、児童がA L T等と英語を用いた交流ができるよう活動を工夫してきた。

(6) 他の小学校や中学校等との連携

- ①中学校区の中学校の英語科の先生方を講師に迎え、クラスルームイングリッシュの講習会及び情報交換を行った。
- ②中学校区で公開授業を行った。中学校区の小学校の先生方と提案授業について話し合ったことで、改めて外国語活動の趣旨を確認できた。お互い刺激となり、各校における外国語活動への取組の具体的な方向性が見えてきた。

(7) その他（校内における外国語活動推進体制の構築、地域との連携等）

- ①5・6年担任をサポートするため、チームを組んで教材づくりをしたり、外国語活動コーナーの掲示物を準備したりしてきた。木曜日をイングリッシュデーと決め、各学年とも英語であいさつしたり、歌を歌ったりしてきた。
- ②学習発表会で、5年児童が外国語活動に取り組んでいる様子を地域に発表した。「楽しく学習していることがわかった」「自分たちが習った頃とはずいぶん違う」と保護者には大変好評であった。

5 取組の成果と課題

(1) 成果

①教員について

ア A L Tに頼るのではなく「学級担任がT 1となって指導する」ことを目標に取り組み、

教職員全員が研修に関わるようにしてきたことで、5・6年担任だけでなく、教職員全体の外国語活動に対する理解や意識を高めることができた。アンケートからも外国語活動の概要、指導内容、方法等を理解していると回答した先生方がほとんどで、5月と12月を比べると40%以上も伸びている。先生方の意識は、当初は積極的ではなく負担に感じるが多かったようだが、意欲的に授業を行うようになってきた。

イ ALT主導ではなく、学担主導で授業をコントロールしていくようになり、英語ノートのCDを何度も聴くなど、受け身ではなく積極的な意識をもって取り組んでいた。「外国語活動のイメージ」ができ、実践への意欲と少しではあるが自信が出てきたことがうかがえる。

②授業実践について

ア 英語ノートは、授業を進める上でモデルになり、児童にとっても、これからどんなことを勉強するのか見通しをもてたり、学習の後に振り返ったりすることができた。

イ 活動のめあてを示すようにしてきた結果、意欲が高まり、目的意識や相手意識をもって活動することができた。

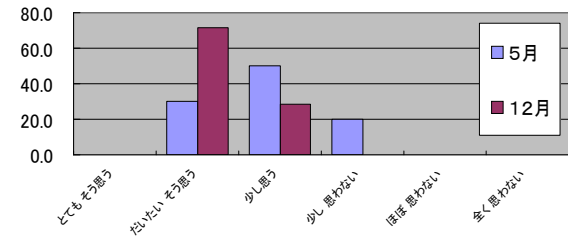
ウ コミュニケーション場面では、英語を使うことにこだわらず、日本語や身振りでもよいと考え活動させたことで、子ども同士の心と心の通い合いも見られるようになった。

エ 一斉やグループ、ペア、パートナーチェンジなど、学習活動形態を変化させコミュニケーションを図る機会を多くしたことは、意欲的に活動することにつながった。



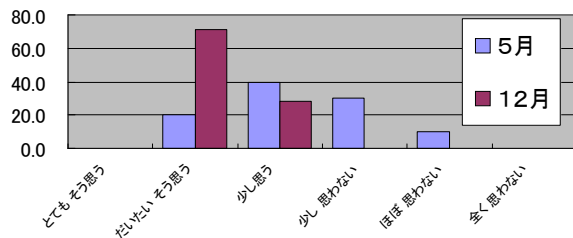
外国語活動の概要を理解している

	とても そう思う	だいたい そう思う	少し 思う	少し 思わない	ほぼ 思わない	全く 思わない
5月	0.0	30.0	50.0	20.0	0.0	0.0
12月	0.0	71.4	28.6	0.0	0.0	0.0



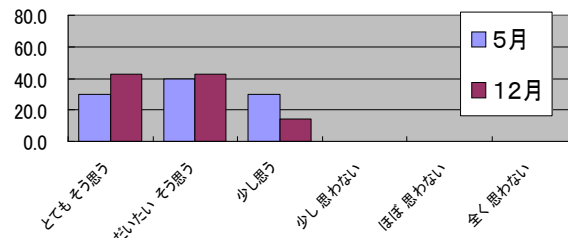
外国語活動の指導内容や方法等を理解している

	とても そう思う	だいたい そう思う	少し 思う	少し 思わない	ほぼ 思わない	全く 思わない
5月	0.0	20.0	40.0	30.0	10.0	0.0
12月	0.0	71.4	28.6	0.0	0.0	0.0



今後研修に努め、23年度全面実施に備えたい

	とても そう思う	だいたい そう思う	少し 思う	少し 思わない	ほぼ 思わない	全く 思わない
5月	30.0	40.0	30.0	0.0	0.0	0.0
12月	42.9	42.9	14.2	0.0	0.0	0.0



③児童について

ア 他教科とは様子が異なることもあり、どの子も外国語の活動が好きで関心も高い。アンケートの結果を見てもほとんどが「外国語活動がとても楽しい」「楽しい」と回答している。教科の学習には苦手意識をもっている児童でも、外国語活動の時間には生き生きと活動する姿が見られた。地域がら外国人と会う機会はほとんどないが、ALTに出会っても自然に接することができる児童が育ってきた。

イ 授業以外で自然に外国語に親しませるよう工夫したこと（外国語活動コーナー、イングリッシュデー）で、習ったことをふだんの生活の中で恥ずかしがらずに話そうとしている児童が増えてきた。



(2) 課題

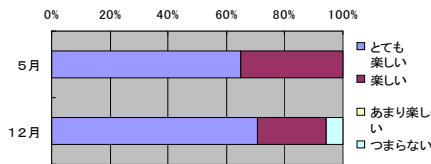
- ①「学級担任がT1となって指導する」ことに見通しがついてきたが、ALTが来校しない場合のことを考えると、いない時でもTTで指導できるような校内体制の工夫が望ましいが、本校のような小規模校では、学級担任の負担を減らすように改善していくことが課題である。
- ②英語ノートの1時間の内容が、盛りだくさんであった。どんな活動が必要かを考え取捨選択していくことが大切であり、今後学級の実態に合わせたものにしていかなければならない。
- ③評価研究に関しては、目標の3つの柱（1. 言語や文化について体験的に理解を深める、2. 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る、3. 音声や基本的な表現に慣れ親しませる）に表現されているように、「できた、できない」というスキルの評価ではないということはわかっているが、我々がどうしても「できた」としがちだったり、慣れない授業を進めながら児童の様子（勇気を出した、わかった、活動した、話をしたなど）を見とったりすることは難しかった。
- ④指導と評価の一体化を図るためには、まず児童の学習状況を的確に把握することが大事であると感じた。英語ノートには主な活動に対して評価規準例及び手段が記載されているが、今後3つの柱を短くまとめた観点を設定し、具体的なめざす児童の姿も観点ごとに設定することが課題である。
- ⑤授業者の負担にならないように自己評価や相互評価にふり返りカードを利用して取り組んできたが、項目や内容をどのように改善するかは今後検討していきたい。
- ⑥話す時に間違いをおそれ、自信のなさがうかがえる場合がある。しかし、とてもよく英語を聞いており意欲的であるので、今後は間違ってもよいので英語でコミュニケーションをとろうという姿勢をもたせたり、うまく言えなくても、身振り手振りを使ってコミュニケーションを図りたいという気持ちをもたせたりする工夫が課題である。
- ⑦12月のアンケートから、6年生の44%が「難しい」と回答した。子どもたちが安心して自己表現ができるような学級づくりを心がけるとともに、個へ対応する手だても考えていきたい。また、5・6年の外国語活動へうまくつなげる望ましい低・中学年の系統性のある英語を使った指導についても考えていきたい。

【参考資料】外国語活動 児童アンケート

1 外国語の授業は楽しいですか。

5年

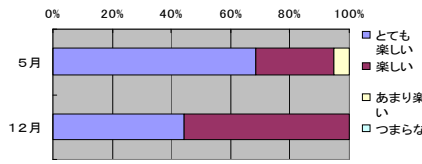
	とても楽しい	楽しい	あまり楽しくない	つまらない
5月	64.7	35.3	0.0	0.0
12月	72.2	22.2	0.0	5.6



5月は全児童が「楽しい」と答えているが、12月になり「つまらない」という児童が出てきた。

6年

	とても楽しい	楽しい	あまり楽しくない	つまらない
5月	68.4	26.3	5.3	0.0
12月	44.4	55.6	0.0	0.0



始めたばかりの時は、「あまり楽しくない」という児童もいたが、12月は「楽しい」が増えた。

2 外国語活動で楽しいと思うものすべてに○をつけましょう。

5年

	ゲームをしたこと	新しい英語を教えたもらったこと	英語で話したこと	その他
5月	88.2	64.7	76.5	41.2
12月	94.4	72.2	61.1	38.9

新しい英語を覚えたことに喜びを感じている。その他は、ジェスチャー、あいさつ、歌、チャンツなど。

6年

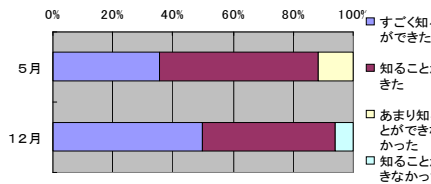
	ゲームをしたこと	新しい英語を教えたもらったこと	英語で話したこと	その他
5月	100.0	63.2	10.5	5.3
12月	100.0	50.0	72.2	16.7

「英語で話したこと」が大きく伸びている。自分の考えを発表したり、英語劇をするなど6年生の英語ノートの内容と関わっている。目標がはっきりし、計画的に授業が行われたことによる。その他は、絵を見て、聞いて考える、チャンツなど。

3 外国語活動の授業をしてから、日本と外国の違いについて知ることができましたか。

5年

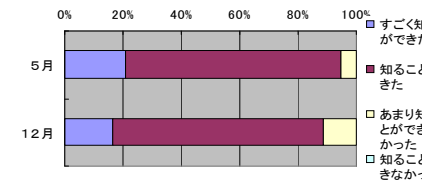
	すごく知ることができた	知ることができた	あまり知ることができなかった	知ることができなかった
5月	35.3	52.9	11.8	0.0
12月	50.0	44.4	0.0	5.6



ほとんどの児童が、日本と外国の文化の違いを感じ取っている。

6年

	すごく知ることができた	知ることができた	あまり知ることができなかった	知ることができなかった
5月	21.1	73.3	5.6	0.0
12月	16.7	72.2	11.1	0.0

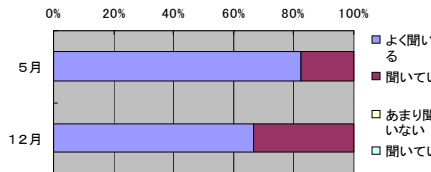


ほとんどの児童が、日本と外国の文化の違いを感じ取っているが、「あまり知ることができなかった」も少しではあるが増えている。

4 授業中、他の人が話す英語を聞いたり、聞こうとしましたか。

5年

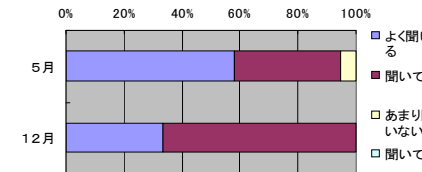
	よく聞いている	聞いている	あまり聞いていない	聞いていない
5月	82.4	17.6	0.0	0.0
12月	66.7	33.3	0.0	0.0



ほとんどの児童が、「よく聞いている」「聞いている」で、一生懸命学習しようとしていることがわかる。

6年

	よく聞いている	聞いている	あまり聞いていない	聞いていない
5月	57.9	36.8	5.3	0.0
12月	33.3	66.7	0.0	0.0

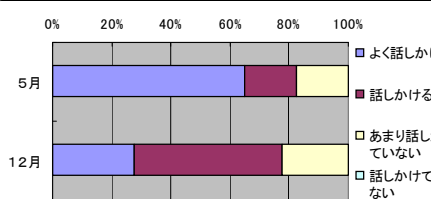


ほとんどの児童が、「よく聞いている」「聞いている」で、一生懸命学習しようとしていることがわかる。

5 授業中に習った英語を使って、話しかけたり、話しかけようとしていますか。

5年

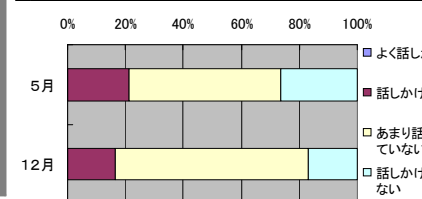
	よく話しかける	話しかける	あまり話しかけていない	話しかけていない
5月	64.8	17.6	17.6	0.0
12月	27.8	50.0	22.2	0.0



「よく話しかける」「話しかける」児童が多いが、12月は、「よく話しかける」が減ってきている。以前よりも難しい言葉が増えたと感じていることが大きな原因である。

6年

	よく話しかける	話しかける	あまり話しかけていない	話しかけていない
5月	0.0	21.1	52.6	26.3
12月	0.0	16.7	66.7	16.6



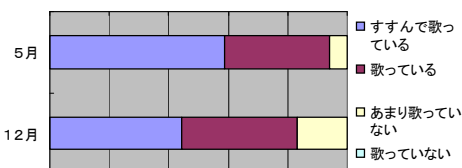
話すことに関しては、消極的な面が見られる。

6 英語の歌を進んで歌っていますか。

5年

	進んで歌っている	歌っている	あまり歌っていない	歌っていない
5月	58.8	35.3	5.9	0.0
12月	44.4	38.9	16.7	0.0

0% 20% 40% 60% 80% 100%

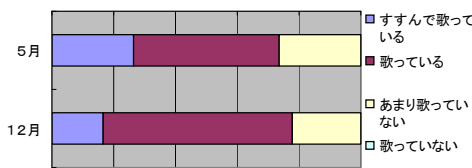


楽しいことの一つに歌があるように、英語の歌を楽しんでいる。

6年

	進んで歌っている	歌っている	あまり歌っていない	歌っていない
5月	26.3	47.4	26.3	0.0
12月	16.7	61.1	22.2	0.0

0% 20% 40% 60% 80% 100%



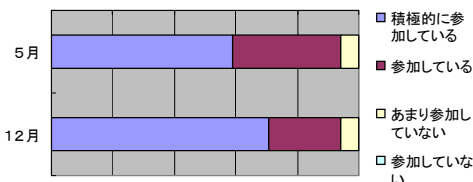
概ね英語の歌を楽しんでいるが、「あまり歌っていない」児童もいる。恥ずかしい気持ちもあるようだ。

7 授業の中で積極的にゲームに参加していますか。

5年

	積極的に参加している	参加している	あまり参加していない	参加していない
5月	58.8	35.3	5.9	0.0
12月	69.2	25.2	5.6	0.0

0% 20% 40% 60% 80% 100%

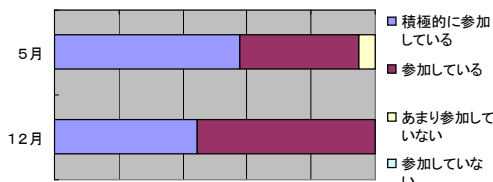


ほとんどの児童がゲームを楽しんでいると感じ、参加している。

6年

	積極的に参加している	参加している	あまり参加していない	参加していない
5月	57.9	36.8	5.3	0.0
12月	44.4	55.6	0.0	0.0

0% 20% 40% 60% 80% 100%



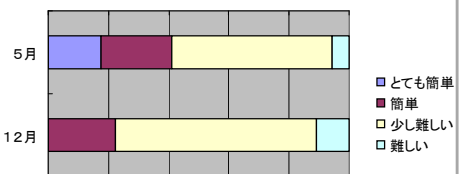
ほとんどの児童がゲームを楽しんでいると感じ、参加している。

8 英語は難しいと思いますか。

5年

	とても簡単	簡単	少し難しい	難しい
5月	17.7	23.5	52.9	5.9
12月	0.0	22.2	66.7	11.1

0% 20% 40% 60% 80% 100%

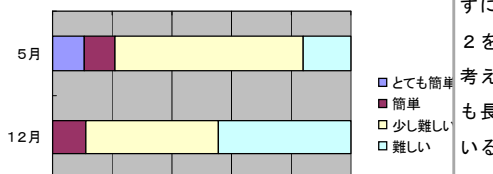


「とても簡単」という児童が減り、「少し難しい」「難しい」と感じている児童が若干増えている。よく耳にしていた英語から、初めて聞く英語が増えてきたため難しいと感じている。

6年

	とても簡単	簡単	少し難しい	難しい
5月	10.5	10.5	63.2	15.8
12月	0.0	11.2	44.4	44.4

0% 20% 40% 60% 80% 100%



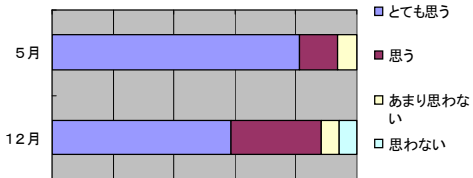
「少し難しい」「難しい」と感じている児童が多い。英語ノート1をやらずに、英語ノート2をやったためと考えられる。言葉も長くなり増えていること、似ている言葉もありわかりにくいようだ。

9 英語を話せるようになりたいですか。

5年

	とても思う	思う	あまり思わない	思わない
5月	81.3	12.8	5.9	0.0
12月	59.2	29.6	5.6	5.6

0% 20% 40% 60% 80% 100%

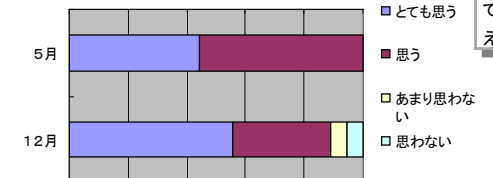


ほとんどの児童が英語を話せるようになりたいと思っている。

6年

	とても思う	思う	あまり思わない	思わない
5月	42.1	57.9	0.0	0.0
12月	55.6	33.2	5.6	5.6

0% 20% 40% 60% 80% 100%



ほとんどの児童が英語を話せるようになりたいと思っている。12月には「とても思う」が増えている。

10 去年は英語ノートがありませんでした。英語ノートがあってよかったと思うことは何ですか。

5年

- 5月
- ・学習の見通しがもてる。
 - ・絵が多く、わかりやすい。
 - ・メモができる。
- 12月
- ・毎週英語の学習ができた。
 - ・学習の手助けとなっている。
 - ・外国のいろいろなことを学ぶことができた。
 - ・外国の人とあいさつができる。
 - ・外国の人に話しかけられても対応できると思う。
 - ・学習して外国の人と話をしたくなった。

6年

- 5月
- ・楽しくたぬかと思っっている。
 - ・わからない時の手助けになっている。
 - ・英語ノートを見て確認できる。
 - ・中学校でもやるので役に立つ。
- 12月
- ・CDを聞く時の手助けになった。後から見直したり、読んだりできる。
 - ・今の学習は、中学でも役に立つと思う。
 - ・外国のことを知ることができた。
 - ・毎週やることで、英語が少し話せるようになった。

6 年間指導計画

月	第5学年		第6学年	
	単元	内容	単元	内容
4月	Lesson 1	世界には様々なあいさつがあることを知り、積極的に自分の名前を人にちは」言っ	Lesson 1	アルファベットの大文字の言い方を知る。読み方を聞いて認識し、自ら読んで大文字とその読み方とを一致させる。
5月	Lesson 2	感情や様子を表す語を知り、ジェスチャーをつけて表現したり、思いを相手に伝えたりする。	Lesson 2	21以上の数字を言う。アルファベットの小文字を認識し、自ら読んで読み方を一致させる。大文字・小文字を書き写す。
6月	Lesson 3	様々なジェスチャーがあることを理解し、1～20の数を言う。いくつか尋ねたり、答えたり、数を扱ったゲームを行ったりする。	Lesson 3	行事の行われる月の言い方を知る。自分の誕生月を言う。誕生日について概要を理解し、友達に尋ねたり答えたりする。
7月	Lesson 4	好き嫌いについて聞き取り、自己紹介をの好き嫌いを伝えたり相手に尋ねたりする。好きなものを含んだ自己紹介をする。	Lesson 4	積極的に聞き、相手のできることできないことを理解する。自分のできることできないことも伝える。友達と尋ねたり答えたりする。
8月	Lesson 5	自分の意見をはっきり言うこと	Lesson 5	建物の言い方や方向、動きを示す道案内をし
9月	Lesson 6	外来語との発音の違いに気づき、注意して発音する。欲しいものを尋ねたり要求したりして、フルーツパフェを作る活動を行う。	Lesson 6	様々な英語があることを知る。行きたい国とその理由について聞いて概要を理解し、行きたい国と理由を尋ねたり答えたりする。
10月	Lesson 7	英語と日本語の違いを通して漢字クイズ大会の成り立ちのおもしろさに気づく。What's this?の質問を理解し、答えたり尋ねたりする。友達とクイズ大会を楽しむ。	Lesson 7	時差がありことを知り、時間の表
11月	Lesson 8	外国の小学校ではどんな学習をしているか知るとともに、教科の言い方を知り、教科名や曜日を扱ったゲームを積極的にする。オリジナル時間割を作成し、発表する。	Lesson 8	世界の民話や物語を興味をもってオリジナルで登場人物を変えたオリジナル「大きなかぶ」をつくる。グループでオリジナル物語を創作し、劇の練習をして発表し合う。
12月	Lesson 9	日本と外国では朝食時の食べ物が異なっていることを知り、食べ物や料理を表す語を知る。丁寧な表現で尋ねたり欲しいものを伝えたりして、ランチ・メニューをつくり紹介する。	Lesson 9	様々な職業の言い方を知る。将来
1月				
2月				
3月				

7 指導案

外国語活動 学習指導案

- 1 単元名：ジェスチャーをしよう（第1限目） 第5学年1組
- 2 使用教材：英語ノート10～11ページ
- 3 本時のねらい：様々な感情や様子を表す語を知り、そのジェスチャーを進んでしようとする。
- 4 本時の展開

時間	学習内容		※指導上の留意点 △準備
	●児童の活動	○指導者の活動	
10	<ul style="list-style-type: none"> ●あいさつをする。 ●指導者同士のあいさつを聞く。 ●指導者の質問に、ジェスチャーや日本語、あるいはYes.やNo.で答える。 ●感情や様子を表す4種類の語を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全体にあいさつをする。 ○指導者同士があいさつをする。 H: Hello, ~sensei. A: Hello, ~sensei. How are you? H: I'm hungry. (お腹がすいたジェスチャーをし、hungryの絵カードを貼る。) How are you? A: I'm fine. (元気のジェスチャーをし、fineの絵カードを貼る。) ○2人の指導者はそれぞれ、数名の児童にあいさつをする。 Hello, ~. How are you? Are you hungry/sleepy/happy/fine? ○黒板に貼られた4種類のカードを見せながら、再度ジェスチャーをし、happy, hungry, fine, sleepyを紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※英語で元気よくあいさつを交わすことにより授業の始まりを意識させるようにする。 ※How are you?の質問の後、具体的にジェスチャーをつけ、絵カードを見せながらAre you fine? Happy?などと尋ねることにより、児童にこの質問の意味と、感情や様子を表す語の意味を理解させるようにする。 △表情絵カード
25	<ul style="list-style-type: none"> ●めあてを確認する。 ●ジェスチャーをつけて答えよう ●ALTの話を聞いて英語ノートP10のどの絵かを答える。 ●ジェスチャー・ゲーム①「いろいろな表情をしよう」をやる。 ●How are you?と尋ねる。 ●ジェスチャー・ゲーム②「先生の気持ちをあてよう」をやる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○めあてを黒板に掲示し確認する。 ○ALTの話を聞いて英語ノートP10の4種類のどの絵のことかを尋ねる。 ○ジェスチャー・ゲーム①をすることを告げ、やり方を示す。 ○I'm~hungry/sleepy/happy/fine.の言い方やジェスチャーに慣れさせる。 ○ALTにHow are you?と尋ねる。 ○ジェスチャー・ゲーム②のやり方を確認する。(ALTが4種類のジェスチャーをし、児童は英語で表現) 	<ul style="list-style-type: none"> △表情絵カード △英語ノート ※デモンストレーションでゲームのやり方を示し、児童にやり方を十分理解させる。 ※ジェスチャーをつけてI'm~と言わせる。 ※児童にHow are you?と尋ねる口慣らしをさせる。 △表情絵カード ※表情絵カードを見せながら、hungry?sleepy?happy?fine?と尋ね、児童から答えを引き出すようにする。
5	<ul style="list-style-type: none"> ●ジェスチャーをつけて“Hello Song”を歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ジェスチャーをつけて歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ※この歌を歌うことにより、本時に学習したことのふり返りをさせるようにする。
5	<ul style="list-style-type: none"> ●ふり返りをする。 ●あいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の英語を使おうとする態度面や英語についてよかったところを言う。 ○あいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ※次時の意欲につながるように、具体的に評価する。児童にも友だちのよかったところを言わせる。

5 評価規準

- ・感情や様子を表す語を進んでジェスチャーで表そうとする。〈行動観察〉

6 指導後の反省点等

- ・“How are you?”と尋ねたり答えたりする会話は、これまでも経験しているので楽しんでやっていた。ただし、ジェスチャーをつけることに恥ずかしさがあったようだが、ALTと担任があげさなジェスチャーを加えて話し、できた児童をあげさにほめることで、少しずつ慣れてきたようだ。「ジェスチャー・ゲーム」として行うことでジェスチャーで気持ちがさらに伝わりやすくなることにも気づくことができた。
- ・1単位時間で無理なく行うことができる内容であった。
- ・知っている会話や歌が出てきていたので安心したのか、積極的に話したり歌ったりする児童が多かった。

外国語活動 学習指導案

- 1 単元名：道案内をしよう（第3限目）
 ～オリジナル・タウンを作って紹介しよう～ 第6 学年1組
- 2 使用教材：英語ノート34～35ページ
- 3 本時のねらい：方向や動きを指示する英語を使って、相手に目的地を伝える。
- 4 本時の展開

時間	学習内容		※指導上の留意点 △準備
	●児童の活動	○指導者の活動	
2	●あいさつをする。 Hello, I'm good / fine / OK / hungry / sleepy.	○全体にあいさつをする。 Hello, how are you?	※英語で元気よくあいさつを交わすことにより、児童に授業の始まりを意識させるようにする。
5	●めあてを確認する。 方向や動きを指示する英語を使って、相手に目的地を伝えよう。 ●前時に学習したチャンツを思い出しながら言う。 “Where is the station?”	○めあてを黒板に掲示し確認する。 ○前時に学習したチャンツを、ジェスチャーをつけ、建物絵カードを示しながら一緒に言う。	※ジェスチャーをつけたり、絵カードを見せながらチャンツを言うことで、児童に意味をしっかりと理解させる。 ※児童が慣れてきたら、行き場を書き変えて飽きないように工夫する。 △CD、建物絵カード
20	●ペアになり、相手の道案内を聞いて、相手と同じ町を英語ノートP32、33の地図上に作る。 ●できあがった町を相手に見せ、同じ町かを確認する。 ●役割を交代する。	○活動の仕方を説明しながらデモンストレーションで示す。	※児童がペアで活動をしている間に、児童の様子を観察し、道案内や指示に従うのが困難な児童に寄り添い、一緒に道案内をしたり、指示に従ったりしながら支援する。 △英語ノート、巻末絵カード
15	●グループで道案内をする。 ●デモンストレーションを参考にしながらグループで道案内をする。	○グループで道案内することを告げ、やり方を説明する。 ①児童を4グループに分ける。 ②教室を4つに分け、各グループで、1つの机を1ブロックに見立てる。机の上に巻末絵カードを選んで置き、机を建物に見立てさせる。 ③グループ内で順に案内し終わるたび、建物絵カードを替え、再度案内をさせる。 ○活動の仕方をデモンストレーションで示す。	※建物絵カードを裏向きに置きわからないようにすることで、近本当のコミュニケーションに近づける。 ※道案内するのが困難な児童に寄り添い、一緒に道案内をして、案内の仕方を支援しながら慣れさせるようにする。 ※案内を頼む際には、Excuse me, ～.と言って声をかけたり、案内をしてももらった後は、Thank you. と言ったりさせることで、気持ちよくやり取りできることを体感させる。 ※デモンストレーションをしながら説明することで、児童に理解しやすくさせる。 ※活動中に個々の児童を見て回り、言いにくそうにしている児童にはそばに寄り添い、一緒に行き方を説明したり行動して支援する。 △巻末絵カード (1グループ1セット)
3	●本時のふり返りをする。 ●あいさつをする。	○積極的に英語を使い覚えようとしていたかという態度面についてよかったところを言う。 ○あいさつをする。	※次時への意欲につながるよう、具体的なことを評価する。

5 評価規準

・方向や動きを指示する英語を使って、相手に目的場所を伝える。＜行動観察＞

6 指導後の反省点等

・机に絵カードを置いて道案内したが、どの児童も楽しく活動していた。中には、意図的に遠回りするように指示する児童もいて、とてもよかった。